

あそか



発行

社会福祉法人

前橋あそか

〒371-0002

前橋市江木町1231番地

TEL 027-269-1566

FAX 027-269-1567

この機関紙は
年2回発行です

(題字) 光明園 三森 隆之さん

できできそうじょう 嫡々相承

※嫡々は嫡子から嫡子へと正しく伝わることの意で師から弟子へと正しく法が伝えられることをいう(仏教用語)



平素より、
関係各位の
方々には、大
変お世話様
なっているこ
とを、紙面を
お借りして御礼申し上げます。

さて、戌歳から亥歳へととなり、元号も令和と改元され、社会福祉法人前橋あそかも本年創立五十二年を迎え、新たな未来に向け事業の計画を進めているところで御座います。

亥歳とは成年に平らになった所に新たに一つ一つ作り始める年ということだそうです。

干支の教えの通り未来に向け確実に歩んでいきたいと考えます。

さて、あそかの母体の公益社団法人前橋積善会は、今から百三十九年前の一八八〇年に創立されていますが、その一年後の一八八一年に群馬県庁が前橋に移されました。移すために高額の資金を提供した前橋二十五人衆はあまりにも有名ですが、一夜にして三万両という、大変な額の寄付を提供することにしたこの二十五人の方々の思いは計り知れません。が、その二十五人の中に当初積善会を設立し運営した役員が五人入っています。

明治四十年の新聞によりますと、当時彼等は県庁を前橋に移す積極的政策、「今で言うハード」、前橋町民の生活を保障しようとする消極的政策、「今で言うソフト」の二本立ての政策を打ち立てた様です。その消極的政策が前橋積善会の設立でした。当時まだまだ安定しない自治行政を補完するべく遠藤海象や増田囃堂、下村善太郎、木村農夫吉、須田伝吉、竹内勝蔵等を中心にして、社会保障の充実のため、生活支援費の提供、治療券、施薬券、無料診療券等の提供、そして診療所の運営へと事業が展開して行くのですが、慈悲善隣、弱者救済の理念のもと歴代の役員会員の方々は、自治体としての脆弱な所を補っていた訳です。

当時の役員の中から初代の前橋市長の下村善太郎を始め二代市長弥城友次郎、五代市長江原桂三郎、七代市長木村二郎、八代市長竹内勝蔵、十一代市長堀康雄と五人の市長が生まれています。県庁を移すだけでなく、前橋町民市民に如何に社会福祉を提供し、充実させて行くかと言うことを、積善会の理念や当時の役員活動の中から読み取ることが出来ます。

その精神は今でも両会に脈々と繋がっていますし、その理念に基づき新たな事業が、前橋あそかの、きらめきの郷まちづくり事業です。

既にルンビニー苑の増改築もその一環として始まっていますが、昨年十二月十七日には旧農業試験場跡地の売買契約を大澤県知事と結びましたので、この広報が出る頃には、その跡地に建っている建物の解体が終了し、広大な敷地が広がっていることと思います。

利用者だけでなく、地域や広く前橋市民の方々が集い、お互いが理解し向上しあい、人生を集いの中から楽しんで頂く、当に地域と一体となる、誰しもが生涯活躍できる場所にしていききたいと、切に思っています。

そもそも、積善会とあそか会は、兄弟法人ですし、お互いの理念も全く同じです。

支援する対象の方々が違うのですが、補充し合う事も大いに出来ます。これからは、両会そのものも支えあいながら、利用者様の最善の利益になる為に精進努力して行くべきであると考えます。

無知や無関心、偏見のない相互理解の場所としたいと考えています。

どうぞ、引き続き益々の御指導御法愛の程よろしくお願い申し上げます。

理事長 栗木 信昌



組織は人なり!!と言いますか...

常務理事 村山 良明



近年の社会構造
においてもつとも
大きな変化は少子
高齢化があげられ
ます。人口ピラミッ
ドを見ても、私が

教科書で習った時分の日本は、ピラミッ
ド型に比べ熟年層が厚い「釣り鐘型」で
したが、昨今の形はドラキュラが入るよ
うな「棺桶型」に向かっていると言われ
ています。

二〇五〇年には人口の最も多い層が
後期高齢者世代となり、それを支えてい
かなければならない働き手世代の絶対
的不足という、深刻な状況を迎えること
となります。まだ三十年も先の話じゃな
いかという見方もありますが、すでにそ
のムーブメントに移行しているという
ことに間違いはなく、新卒職員の採用に
当たったの苦労は五年前の比ではなく
なっています。

幸い前橋あそか会では、数名の新卒者
を採用することができましたが、一人も
採用できなかったという同業者も少な
くなかったようです。組織を維持し、事
業を継続してゆく困難さが延々と追い

かけてくる、かような社会構造の変容に
対応するために、前橋あそか会に今いる、
これから加わる貴重なメンバー一人一人
の自己実現のために、そして地域のみな
さまのご期待に応えるために、より一層
の組織強化、強い組織づくりが必要であ
ることを痛感しています。

強い組織とは、「組織の目標達成に向
かって、全員のベクトルが一致してい
る」、「個々が、必要なスキルを高いレベ
ルで持っている」、「業務の均質性を担保
するためのマニュアルが整っている」、
「組織全体、あるいは各部署を適切にマ
ネジメントできる、優秀なトップ、リー
ダーがいる」等々の要件を備えていなけ
ればならない、ということに異論はない
と思います。

現況はといいますと、諸先輩方が連綿
と築き上げてきた、前橋あそか会とあそ
か会イズムを継承しつつ、より強い組織
をつくるための取り組みにかかっている
ところですよ。まず、全員のベクトルをそ
ろえる、ということでは「あなたと共
に素敵な未来を創る」という法人理念を
掲げ、事業計画に忠実に業務を進めてい
るところで、その重点施策が「きらめき

の郷まちづくり事業」です。個々のレベ
ルの向上については、社会福祉充実計画
で職員研修に多くの予算をつけるとも
に、停滞気味であった施設・事業所間の
職員交流・異動を活発に進めることによ
り、一人一人に複数事業で必要なスキル
(資格)を身に着けることで、マルチな
活躍のできる人材になってもらいます。

業務のマニュアル化については、特に各
施設・事業所内でのOJTにおける属人
性を極力排し、誰が誰についても同じ成
果が得られるようなシステム化を目指し
ます。そしてそれらの取り組みの過程で、
一人一人が自分自身のキャリアにも明確
なヴィジョンを持って、結果、優秀なリー
ダーが顕現し、その道筋の先に、取り組
みの集大成として強い組織の醸成がある
のだと思っています。

余談ではありますが、今まで私自身は
前橋あそか会を中小企業(社会福祉法人
は企業ではありませんが)という括り
でとらえていたのですが、中小企業基本法
(そもそも社会福祉法人は、依拠する法
律が違います)には、百人を超える従
業員を抱えているサービズ業に属する事
業(社会福祉法人は厳密にいえばサービ

ス業でもないのかも知れませんが)は中
小企業には分類されないという記述があ
ります。これを知った時に、では前橋あ
そか会は大企業なのか、と他人事によ
うにびつくりしました。

それはさておき、つまりは大きければ
それだけまとまることが難しくな
るといことです。ましてや前橋あそか
会は五つの拠点に分かれており、それぞ
れが異なるニーズにたいするサービズ提
供を行っているのです、前記のようにざっ
くり簡単に進む話ではないのだらうな、
というのが実感です。決して弱音ではな
く、組織強化ミッションは、常にアッ
デートし続けていかなければならないも
の、五年あるいは十年スパンで、覚悟を
決め、腰を据えて粛々と推し進めてい
かなければならないものなのでしょう。気合を
入れ直して、引き続き取り組んでゆき
たいと思います。

ところで、どなたか前橋あそか会で働
いてみたい、という方はいらっしゃいま
せんでしょうか?業務内容、待遇等は応
相談ということでは...

きらめきの郷まちづくり事業



常務理事 関谷 貴

1 今、なぜ、きらめきの郷まちづくり事業なの？

前橋あそか会は、昭和四十二年に公益社団法人前橋積善会から分離独立し、今年で創立五十二年目を迎えました。現在、障害者支援施設「赤城野荘」「ルンビニー苑」、障害福祉サービス事業所「光明園」、児童発達支援センター「たんぼぼ学園」、特別養護老人ホーム「やすらぎ園」等の五施設、二十事業を運営しています。

参考までにお話すると母体である公益社団法人前橋積善会は明治十三年に遠藤海象、木村農夫吉、増田嚶童、河野彦郎、生田英碩、横地源七郎、高畑平作、山室民治、山室喜四郎、須田傳吉、古沢庸軒、佐藤啓造という十二人の市内有力者により「慈悲善隣」、「貧者救済」を理念として発足しました。

前橋市が誕生したのが明治二十五年（一八九二年）ですので、それよりも十二年も早くこのような福祉事業を興した先人の意識の高さには恐れ入ります。また、あそか会や積善会に関係する私たちも、その高い志と誇りを持ち続けたいものです。

因みに初代会長は、初代前橋市長でもある下村善太郎です。

話を「きらめきの郷まちづくり事業」に戻します。あそか会の施設のほとんどは法人設立後同時期に建設されたことから建築後三十年以上たっており、壁や床のひび割れ、クロスが剥がれ等の老朽化が課題となっています。更には入所者の高齢化が進み、居住環境も障害者が生活するには使い難くなってきました。

また、これまでの施設整備は「必要な建物を単に敷地内の空いている場所を探して建設する」という手法をとってきたことから長期的

視点での施設配置ができていませんでした。このようなことから動線が複雑になり施設間移動に不便を来す場面もでてきました。いわば都市計画をたてることなく街づくり事業を実施していたようなものでした。

そこで、あそか会ではこれらの課題に対応するため、今後十年を見据えて「きらめきの郷まちづくり事業」を策定いたしました。

2 どんな内容なの？

施設整備にあたっては赤城山の麓に立地するという自然環境を活かすとともに、地域の皆さんから愛される施設となるため地域との共生、施設にいる人、また、通ってくる人が快適な生活を送れるような福祉の充実を念頭に基本コンセプトを「赤城山の麓にて、自然を身近に感じながら障害者、高齢者、地域住民が日常的に交流するソフト、ハード両面で他の模範と

なる新たな街づくりを目指す」と定めました。

その他、施設周辺には赤城山を背景に江木新沼親水公園、上武道路、上毛電鉄江木駅、厩橋病院、県立心臓血管センター等が、また、生活拠点ではローズタウン東団地、菅野団地、江木団地等があります。

江木団地では、障害者同士が共同生活を営むグループホームや学生向けのシェアハウスの構想も進んでいます。

その他、市民にも開放している多目的交流施設あそか会館や前橋東看護学校等もあり、それぞれ地域交流の面で重要な役割を果たしています。「きらめきの郷」はこれらの施設と共生を図るとともに有機的に連携しながら互いに相乗効果を発揮するための核となり、既存の病院、学校、住宅団地や商業施設等とともに福祉、医療の一大ゾーンを目指していきます。

対象期間は、二〇一八年から二〇二七年までの十年間です。

この期間に旧群馬県農業技術センター跡地の購入、同施設内建物の解体、赤城野荘、たんぼぼ学園等の移転新築等を予定しています。また、現在の赤城野荘、たんぼぼ学園、厨房棟等の解体、地域の皆さんから強い要望のあるクリニックの開設や既存施設の再配置等も

既に群馬大学、上毛電鉄、とりせんなど地域の組織、団体を巻き込んでコミュニティバス運行の実証実験や地元自治会主催の江木まつりをあそか会館において共同で実施しております。更に、毎年十月に実施している「あそかまつり」には前橋東看護学校にも参加いただき、地元の方々の健康面をサポートするなどの取り組みが進んでいます。



きらめきの郷全体図

予定しています。対象地域は、現在のあるあそか会、あそか会の母体の公益社団法人前橋積善会、それと旧群馬県農業技術センター跡地も含めた約十一ヘクタールです。



旧群馬県農業技術センター跡地整備後のイメージ

これは「きらめきの郷」の完成予想図です。旧農業技術センター跡地を南東上空から眺めた様子です。憩いの広場を中心に北側に赤城



コミュニティバスの実証実験で使われた群馬大学の e-com10



憩いの広場と赤城野荘 イメージ

野荘、南側に「たんぽぽ学園」や集客施設を配置しようとしています。公園の中にある福祉施設といった感じで、障害者、高齢者、地域住民の交流の場になります。そして、施設整備にあたっては、敷地の真ん中にある樺の木をシンボルツリーとして緑あふれる自然と共生する施設として、利用者と地域の人々の憩いの場として生まれ変わる予定です。敷地の真ん中にある樹齢百五十年の樺の木は、前橋あそか会の母体である前橋積善会と同じ時間を過ごしてきました。この木は、はるか昔から地域の人々や私たちが温かく見守ってきたくれました。そして、この先もずっと私たちを見守ってくれるこ



赤城野荘完成予想図

開かれる東京オリンピック・パラリンピックの頃に完成予定の赤城野荘です。地域のランドマークとしての特徴的な建物群がお分かりいただけるかと思えます。真ん中左側に見えるのが赤城野荘です。敷地北側部分に六十人定員のユニット型の住宅部分、その南に厨



赤城野荘完成予想図 イメージ

とでしよう。前の写真は、シンボルツリーの樺の木を中心とした「憩いの広場」(中央広場)のイメージです。

房棟、事務棟等を配置予定です。
 新赤城野荘は災害時に地域の皆さんの避難所として活用いただくための準備も進めています。

3 事業はいつから始まるの？

事業期間は前にも触れたとおり二〇一八年からの十年間ですが、既に昨年九月にルンビニー苑の事務室、男女の浴室等の増改築工事に着手しており、本年六月には竣工予定です。この工事が終了することにより、現在一つしかない浴室が二つとなり、男女別に日替わりで利用している浴室が毎日利用できるようになる等、入所者の利便性向上、職員の業務の改善が図られます。また、現在裏側にあり来訪者にわかり難い玄関が道路側の正面



建設中のルンビニー苑事務・浴室棟

に移るなど正に顔の見える施設となります。



旧群馬県農業技術センター 建物解体前



旧群馬県農業技術センター 建物解体後

既に本年一月には農業技術センター跡地を県から取得し、登記も完了しました。昨年十二月の建物

等施設解体入札の結果、本年二月から建物の解体が始まり、今はほぼ全ての建物がなくなりました。

シンボルツリーの櫟の木が一本広い敷地にポツンと残っているのがとても印象的です。解体前と解体後の写真を比べてみると大きく様子が変わっていることに気づくと思います。今後の施設整備の期待がふくらみます。

八月には障害者支援施設「赤城野荘」の移転新築工事の着工を予定しています。新しい建物ができるのと外観の美しさだけではなく、現在、管理棟、居住棟、医務訓練等は渡り廊下で結ばれていますが入所者にとって辛い冬季の建物間移動も無くなり健康面の不安もなくなりそうです。

更に来年には未就学児童の発達支援をしている「たんぼぼ学園」の建設に着手予定です。

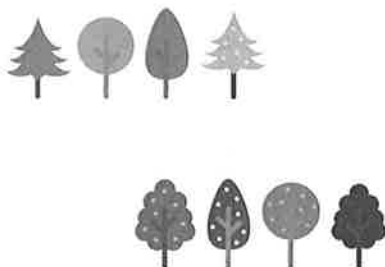
その他、リーズナブルな価格で、美味しいパンで評判の「あかぎの工房」もギャラリー併設のおしゃれなカフェに生まれ変わります。

ギャラリーには、施設利用者の作品を飾り、鑑賞しながら、ゆったりと「あかぎの工房」の美味しいパンとコーヒーを召しあがっていただけるようになります。



新しい「あかぎ野工房」イメージ

関係者の皆様には「きらめきの郷」の完成を温かく見守るとともに楽しみにしててください。



ルンビニー苑の 管理者が交代 致しました。



ルンビニー苑 管理者
青木 利治

永年勤続者表彰

アンケート質問項目

- ① 就職した時から現在に至るまで変わったと思うことは？
- ② 逆に変わらないと思うことは？
- ③ 前橋あそか会で働いて達成・貢献できたと思うことは？
- ④ これからの目標は？
- ⑤ 今一番やりたいことは？

勤続
10年



赤城野荘

阿久津 志津子

- ① 老人く障害への異動があった事。
- ② 性格。仕事に対する気持。
- ③ 三人の息子を大学に出せた事(自分への達成)。
- ④ 健康で無事に勤務が出来る事。
- ⑤ 一週間位旅行したい。

勤続
20年



やすらぎサービスセンター

関野 大輔

- ① 年齢はずいぶん年をとった。
- ② 利用者様に対する思い。
- ③ あそかまつりでおいしい焼きそばが焼けた。
- ④ 仕事とプライベートの両立。

勤続
20年



たんぼぼ学園

前原 恭子

- ① 良くも悪くも図々しくなったのと、子供に優しくなった。
- ② 根本的な性格。
- ③ 逆に周囲に聞いて回りたい。
- ④ 何事もなく勤め上げる。
- ⑤ サンライズ出雲に乗って出雲大社にお参りする。

勤続
20年



たんぼぼホーム

狩野 実佳

- ① 体力が落ちたと思う。
- ② 元気なところ。
- ③ 働き続けていること。
- ④ 趣味を見つけて。
- ⑤ 休暇をとってゆっくりしたい。

新 任 職 員 紹 介

よろしくお願ひします！

アンケート質問項目

- ① 就職した動機は？
- ② ここだけは絶対に人に負けたくないと思うことは？
- ③ これから目標は？
- ④ 趣味・特技は？
- ⑤ 尊敬する人物(ビジネスパーソン/歴史上の人物等)とその理由は？



赤城野荘

坂村 佳希

- ① 以前も自立支援施設でお世話になっており、引越しを転職とし、今回お世話になる事となりました。
- ② 好きな事に対して熱中できる事。
- ③ 皆様と共に、自分も成長していければと思います。
- ④ 自転車に乗って出かけたり、電車を使って輪行したりする事。
- ⑤ 以前、支援についての考え方や、利用者様への接し方を学ばせて頂いた方がおり、その人が自分の中の基となっていると思います。



やすらぎ園

湯澤 智恵

- ① 福祉に興味を持ちました。
- ② やる気
- ③ 役に立てる人材になること。
- ④ 空手
- ⑤ 空手の先生。何かを始めるのに遅いということはないと改めて教えていただいたので。



やすらぎ園

相田 佑香

- ① 四月に施設の近くに引っ越ししてきました。地域の医療・福祉で資格を活かしたいと思いやすらぎ園に来ました。
- ② 特になし。
- ③ まずは基本の仕事をしっかり覚え慣れること。それから入所者様個人個人に合った対応をとれるようになることだと思います。
- ④ 読書からゲーム、ハンドメイド関係など色々です。
- ⑤ 尊敬する人物は個人ではありませんが、自分の周りで仕事をする皆さんだと思います。それぞれの人に色々な経験や考えがあり、話すだけでもいつも勉強させてもらっています。



特別支援センター
坂本 友香

- ① 高齢者のADL維持・向上に携わりたかった。
- ② 元気
- ③ 定年まで働く。
- ④ スポーツ・スポーツ

⑤ 観戦。
ステイヴン・スピルバーグ 世代、人種等問わず多くの人に感動を与えている。



やすらぎ園
池田 淳子

- ① 歴史のある社会福祉法人で資格をいかした仕事に魅力を感じました。
- ② くよくよしない、めげない、ポジティブさ。

③ 仕事をする上での目標は自分の感情を入れられない支援。個人的な目標はダイエツト(笑)。
④ 米津玄師が好きです。何事も楽しくやります。
⑤ 美輪明宏：言葉に癒されます。



赤城野荘
藤城 瞳

- ① (知的)障害のある方への支援・指導を長くされており、自分の知識・技術を高め、利用者の方、また周囲の方等がより良い

生活を送ることが出来るような支援を行っていききたいからです。

② 一つ一つの事柄(対応・やるべきこと等)に真面目に取り組むことです。一方で体力に自信があります。
③ 今年(できれば一ヶ月半の間のくらい)には流れを理解、把握し、早く現場での力になれるように努めていますと考えています。
④ 映画鑑賞と音楽鑑賞です。特技は器械体操です。
⑤ 私の母です。どんな時でも、私の、また私の家族の味方となって支えてもらいました。今ここにいるのは、関わっている皆様のお力、支援があつてこそなので、このことを忘れず利用者の方、また職員の皆さんと関わっていききたいと考えています。



赤城野荘
干川 龍也

- ① 実習先であったため。環境が良いと思った。
- ② 明るさ
- ③ 長く続けていけるようにする。

④ 趣味 野球、バスケットボール、バドミントン、読書
特技 スピードスケート
⑤ イチロー 四十歳代になつてもメジャーで活躍するすごさとストイックさ。



光明園
津久井 陽子

- ① 障害を持っている方と関わりながら、接し方を学び一緒に働きたかった。
- ② 朝の早起きの継続(二十年位)

③ 健康寿命をのばし、大切な人の行く末を見守りたい。
④ ガーデニング、草むしり
⑤ 松下幸之助 月刊PHPを愛読していて、生き方、考え方を参考にしている。



たんぼぼ学園
米山 喜美

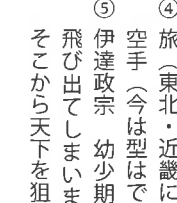
- ① 以前、あそか会に勤務しており、今回ご縁があり復帰できました。
- ② 大声で笑うこと。
- ③ 笑顔で楽しく関わり

合つて、子ども達の持っている力を伸ばしていきたい。
④ 特技なし。趣味：映画のレイトショーを観ること。
⑤ 坂本竜馬・勝海舟：将来を見据え、今なすべきことを考え信念を持って実行していくところが素晴らしい。



たんぼぼ学園
田中 瑞樹

- ① 大学一・二年の時にボランティアで「あそかまつり」に参加させていただきました。その時に感じた雰囲気がとても良く、自分もこの一員となり障がいを持った方々と共に地域を盛り上げていきたいと思いました。
- ② ・声の大きさ・元気
- ③ 二年後をメドに実家を出て一人暮らしをする。



特別支援センター
齋藤 美香

- ① 実習で特養に行った際、利用者様が皆優しく、高齢者の方と関わる仕事に就きたかったため。
- ② 我慢強さ

③ 一日も早く仕事を覚え、利用者様と良い関係を築いていきたい。
④ 旅行・温泉巡り
⑤ 安藤百福 理由↓カップラーメン開発のために多くの失敗をしたが諦めなかつた所に感銘を受けたため。



ルンビニー苑
永塩 正樹

- ① 今後、あそか会での「きらめきの郷」が出来、それを含め、職員・利用者と共に歩んでいきたいと思志望しました。

② 笑顔・親近感
③ 社会福祉士を取得し、利用者だけではなく地域の方々からも信頼されるような人間になる。
④ 特技：野球 趣味：旅行・音楽鑑賞・遊ぶ事
⑤ 父・誰からも信頼され、家族を支えていく大黒柱になりたい。



ルンビニー苑
星野 玲香

- ① 実習や前橋あそかまつりに参加させていたとき、障がいをもつ方と接してみたいと感じました。

② 粘り強さと明るさ。
③ 社会福祉士等の資格取得。
④ 読書、絵を描くこと、音楽を聴くこと。
⑤ 母・私の母はとても芯が強く、周囲への気配りもできるような人なので私もそうなりたと思っています。

社会福祉法人

前橋あそか会

☎027-269-1566 (法人本部)

指定障害者支援施設

赤城野荘

共同生活援助事業

あかぎのホーム

指定障害福祉サービス事業所

たんぽぽホーム

指定障害者支援施設

ルンビニー苑

指定相談支援事業所

赤城野荘障害者相談支援事業所

指定障害福祉サービス事業所

光明園

児童発達支援センター

たんぽぽ学園

放課後等デイサービス

ふれんどクラブたんぽぽ

児童発達支援事業所

わくわくランドたんぽぽ

障害児相談支援

ぽかぽか

特別養護老人ホーム

やすらぎ園

老人デイサービス

やすらぎ園デイサービスセンター

老人地域包括支援事業

前橋市地域包括支援センター桂萱

老人居宅介護支援事業

やすらぎ園居宅介護支援事業所

老人訪問介護

やすらぎ園ホームヘルパーステーション

ご寄贈頂きました!



日本精工福祉基金様



編集後記

少年A「なぜ人は生まれてくるんだらうね?」

少年B「それは思い出をつくるためだよ。」

とあるラジオパーソナリティが電車に乗っていた時の一幕だったそうです。

この放送を聴いて早十数年、未だに車から流れるラジオを聴くたびにふと思いつき、感慨深い気持ちになります。

“最近の若者は…”とよく言いますが、まんざら軽視できないことも多々あり、先進だけでなく後進からも良き学びを得られるように思われる今日この頃です。

題字作品紹介

三森 隆之さん (光明園)

何度も何度も練習し、いっしょうけんめい書きました。